

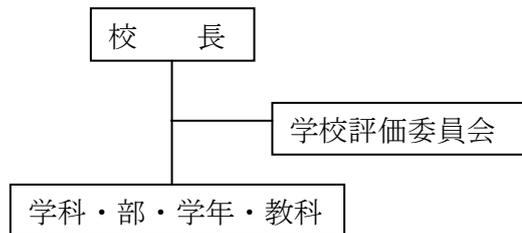
I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

「教育目標」と「我等の信条」が本校の『学校経営・運営ビジョン』の根幹となっている。これを実現するために4つの努力目標を設定し、さらに努力目標の実現のための具体的な下位目標を設定している。

前年度の分掌ごとの反省や学校全体として取り組むべき課題をもとに、年度初めに校長により『学校経営・運営ビジョン』が示される。

2 校内組織体制について



各学科・各部・各学年・各教科等の実践を組織横断的に評価するために、校務分掌組織とは別に学校評価委員会が組織されている。

3 自己評価年間計画について

	学校評価委員会の活動	学校評議員の活動
4月	「学校経営・運営ビジョン」の策定	第1回学校評議員会
5月		
6月		
7月		
8月		
9月	第2回学校評議員会	
10月		アンケートの作成
11月		アンケートの実施
12月		アンケートの集計
1月		アンケートの分析
2月	学校評価のまとめ	第3回学校評議員会
3月	「自己評価実施報告書の作成」 次年度スクールビジョン作成に向けた提言	

II アンケートの概要

1 実施時期、実施方

教員	12月9日配布	12月18日〆切	無記名	選択方式
生徒	12月9日配布	12月18日〆切	記名	選択方式
保護者	12月9日配布	12月18日〆切	記名	選択方式

- ・今年度も昨年度同様アンケートによる評価は1回のみ、2学期終わりに実施することとした。
- ・アンケートは生徒、保護者、教員の3者を対象に生徒には16、教員、保護者には15の調査をした。設問1～12はビジョンに示される項目を評価する内容であり、設問13～16はビジョンに関わらない学校全般を評価する内容とした。

2 アンケートの回答数

対象	今年度のアンケート			昨年度のアンケート		
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合
生徒	707	646	91.4%	743	720	96.9%
保護者	707	425	60.1%	743	445	59.9%
教員	70	65	92.9%	73	73	100%

- ・昨年度と今年度の回答数を比較すると、生徒は5%の減。保護者はほぼ同率。教員については冬期間に出張している教員からのアンケート回収が出来ず約7%の減となった。

3 評価基準について

- ・それぞれの項目の達成度を1～4の評価基準で回答を求めた。4段階評定としたのは、中間回答（どちらでもない）の層を、肯定的評価または否定的評価のいずれかに振り分けるためである。

4 アンケートによる評価のまとめ

アンケート結果の分析

努力目標（1）「学習意欲の育成」に関して

《データ》 ※（ ）は昨年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術・技能を修得できると思いますか | 98.2% (97.6%) |
| 2 授業方法は工夫されていると思いますか | 91.5% (86.0%) |
| 3 授業に積極的に取り組むようになりましたか | 90.2% (87.2%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|---|---------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術、・技能を修得できると思いますか | 98.8% (97.3%) |
| 2 授業の参観や、またはお子様の話から、本校の授業はわかりやすく展開されていると思われませんか | 83.9% (80.0%) |
| 3 お子様が学習している科目の内容や評価のしかたについてご存じですか | 56.4% (61.1%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 1 本校ではものづくりをとおした知識、技術・技能が修得できる体験型の学習の充実を図ることができていますか | 95.4% (94.5%) |
| 2 わかりやすい授業をするために、授業の工夫を行っていますか | 95.4% (91.8%) |
| 3 学ぶ意欲を引き出す評価の工夫・充実を図っていますか | 84.6% (89.0%) |

《考察》

努力目標（1）「学習意欲の育成」に関しては、いずれも高い評価が得られている。

設問1のものづくりをとおして知識・技術・技能を修得できるとした回答は、生徒・保護者・教員いずれも昨年同様95%を超える高評価である。また前年度との比較でも3者ともポイントがアップしている。細分化すると、教員の肯定評価の『特にそう思う』は昨年の42.5%から58.5%と『少しそう思う』の36.9%を上回った(昨年は52.1%)のが目立った。工業高校の設備を使っての体験型学習の有意義さが生徒から保護者へと浸透し、それがまた期待の高さに繋がったと言える。

設問2の授業方法の工夫をしているかの細分化では『特にそう思う』が教員で昨年度21.9%に対し32.3%とアップ。生徒も昨年度31.7%が37.5%にアップ。この連動したポイント数のアップは偶然ではない。実はこの毎年アンケートでも、生徒・教員間の同系統の質問の答えは連動する確率が高い。教員の取り組みが生徒の回答に反映されたと思われる。

設問3の教員の、生徒の意欲を引き出す評価の工夫を図っているかの肯定的回答は、昨年89.1%から84.6%に下がってはいるが、細分化では『特にそう思う』が極わずかだが約4%アップしているのに合わせて、生徒の、授業へ積極的に取り組むは、肯定的回答は87.2%から90.2%と着実にアップしている。しかし保護者が、その評価方法を知っているかについては43.6%が否定的回答をしている。毎年ほぼ同等の数値で、約半数が知らない。保護者にも子供の教育や進路について協力していただくためにも、学校側から保護者への丁寧な説明が必要であると考えられる。

努力目標（２）「職業観の育成」に関して
《データ》 ※（ ）は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 4 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、1年次から自分の進路を考えるようになりましたか 85.6% (83.6%)
- 5 インターンシップなどは、将来の職業を考える上で有益だと思いますか。 96.3% (91.8%)
- 6 講習会や課外指導に参加するなど、資格取得や検定合格のための努力をしていますか。 81.3% (76.7%)

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 4 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、1年次から進路意識を啓発するための指導が行われていると思いますか。 93.8% (93.0%)
- 5 インターンシップなどは、お子さまが進路実現を図る上で有益だと思いますか。 95.7% (94.2%)
- 6 お子さまは、資格取得や検定合格のために、講習会や課外指導に参加するなどの努力をしていますか。 82.1% (80.0%)

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 4 企業見学会・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、進路意識の早期啓発を促すことができていると思いますか。 96.9% (91.8%)
- 5 インターンシップをとおして、生徒のキャリア教育の充実を図ることができていると思いますか。 84.6% (84.9%)
- 6 各種資格検定合格のための支援体制は十分だと思いますか。 67.7% (72.6%)

《考察》

努力目標（２）「職業観の育成」に関しても、高い肯定的評価であった。しかし肯定的評価の『特にそう思う』『少しそう思う』の割合が、それぞれ半々に近くなっているのが特徴的である。

設問4の生徒の、自分の進路を考える様になったかについての肯定的評価は85.6%と着実に伸びて来てはいるが、『少しそう思う』がその半数以上を占めている。教員では肯定の中の40%が。保護者では45.5%が『少しそう思う』を占めている。また反対に否定的評価が生徒で15%と、意識啓発や指導の手立ての難しさが見て取れる。

設問5のインターンシップなどの早期のキャリア教育について、全体的には機能していることが読み取れる。しかしこれもまた生徒34.8%、保護者37.7%、教員45.2%が『少しそう思う』となっている。インターンシップが有効なのは間違いないが、協力企業の都合から、その生徒が希望する職種を体験出来ない場合もあり、生徒の気持ち的にこの結果なのかもしれない。

設問6の資格検定への努力や支援体制については、昨年同様の『特にそう思う』対『少しそう思う』の比率が、生徒34.1%対47.2%。保護者38.2%対43.9%と高く、特に教員は27.7%対40%と『少しそう思う』が高い。資格試験に対応出来る教員の都合もあり、徹底した指導が難しいのかもしれない。ある程度は生徒のやる気任せになる部分も多いのではないだろうか。

教員の取り組みが確実に生徒の取り組む姿勢に反映されている。生徒の向上心の核は教員そのものだとアンケートの数値から読み取れる。もし教員の『特にそう思う』の評価が、肯定的評価全部

の70%になったらどうなるだろうか。そこに教員について行こうとする気持ちを持った生徒が来たらどうなるだろうか。人を活かそうとする力に、人が生きようとする力。これが合わさった時、凄いとてつもない力が生み出されるはずである。人と人同士、それに伴って向上心も、そして周りもそれにつられてだんだんと向上して行くという、まずは教員からではないかと言える。

努力目標(3)「社会性の育成」に関して
《データ》 ※ () は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| 7 自律した生活を送り、校則や社会のマナー・ルールを守っていますか。 | 96.0% (93.2%) |
| 8 環境美化や省エネを心がけていますか。 | 85.5% (81.7%) |
| 9 部活動に積極的に参加していますか。 | 81.7% (74.6%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 7 お子さまは、基本的な生活習慣が確立され、校則や社会のマナー・ルールを守っていると思いますか。 | 93.9% (94.4%) |
| 8 お子さまは環境美化や省エネに心がけていますか。 | 74.7% (76.6%) |
| 9 お子さまは部活動に積極的に参加していますか。 | 84.0% (82.5%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|---|---------------|
| 7 HR、服装髪指導、登校指導、部活動をとおして、社会性・規範意識や基本的な生活習慣を身につけさせる指導に力を入れていますか。 | 89.2% (87.7%) |
| 8 校内美化、省エネの推進、実習での服装指導などをとおして、環境と安全に対する意識を高める指導に力を入れていますか。 | 86.1% (79.5%) |
| 9 生徒が部活動を通して社会性を身につけ、自己実現を図ることができるように配慮していますか。 | 92.3% (87.7%) |

《考察》

努力目標(3)「社会性の育成」に関しても、全体としては高い評価であった。

設問7の社会のマナーやルールへの肯定的評価は、生徒も保護者も約95%と非常に高い。しかし細分化すると『特にそう思う』と『少しそう思う』は約半々なのである。目立ったのは教員の取り組みで『特にそう思う』が昨年28.8%から41.5%となった。生徒の大多数は規範意識を持っている。

設問8の環境美化・安全・省エネ意識も肯定的評価は高い。だが『特にそう思う』生徒・教員が30%強なのに対し、保護者は18%と、生徒の公と私の姿が見て取れる結果となった。震災以降、省エネ節電への意識は高まったが、環境美化の意識を身につけさせる継続的な指導が必要である。

設問9の部活動の積極的参加については55.7%の生徒が熱心に取り組んでいる。本校は部活動をとおして「社会性を身につけ自己実現を図る」という努力目標を掲げる。教員の『特にそう思う』は昨年の34.2%から43.1%とアップし、生徒の答えも連動して昨年より数ポイントアップしている。

一方18.3%の生徒は部活動参加に否定的な回答だった。もちろん資格取得の勉強やアルバイトなどで自己実現の場がある生徒も含まれていると推測する。課題は、明確な目的意識を持たず、社会性や自己実現がおざなりになり兼ねない生徒に対する指導である。

努力目標（４）「地域との連携推進」に関して
《データ》 ※（ ）は今年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 10 学校からの配布物をきちんと家族に渡していますか。 83.6% (78.2%)
11 外部講師による研修などに積極的に取り組んでいこうと思いますか。 79.1% (74.7%)
12 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、外部に適切に発信されていると思いますか。 85.0% (79.2%)

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 10 学校からの配布物、ホームページ、一斉メール、PTAの各種会合などによって、知りたい情報を得ることができていますか。 78.9% (71.9%)
11 本校が地元企業との連携をいかした取り組みなどを行っていると思いますか。 85.6% (84.7%)
12 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、外部に適切に発信されていると思いますか。 84.2% (76.4%)

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- 10 学校からの情報はHPや配布物、各種会合などをおして、有効に発信されていると思いますか。 75.4% (68.5%)
11 専門高校プロジェクト事業など外部事業に関わる校内の協力体制は整っていると思いますか。 73.9% (72.6%)
12 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、地域・保護者に適切に発信されていると思いますか。 69.2% (69.9%)

《考察》

努力目標４「地域との連携推進」については、各設問75%以上の肯定的評価だったが、先の設問と比べると評価が低い。昨年との比較については、大きく変化していない。

設問10の、学校の配布物を保護者まで届けている『特にそう思う』は37.8%。『少しそう思う』は45.8%。計83.6%となっているが、全ての配布物が保護者まで届いてないのは問題である。今以上に下がらないように、生徒には配布物の手渡しの徹底の呼びかけと、保護者へはホームページや会合を通じてどの様な情報が得られるか等の説明も必要と思われる。

設問11の産学官連携の推進の状況を問う設問の肯定的評価の内訳では、生徒・教員とも『少しそう思う』と評価したのは『特にそう思う』の評価の2倍以上となっており、これもまた手だてが必要である。

設問12の学校運営や教育活動の公開についての状況を問う設問では、肯定的評価は生徒・保護者・教員、85%・84.2%・69.2%で、その中の『特にそう思う』では25.9%・22.9%・13.8%と低評価となっている。懸念されるのは、どう公開されているのか理解されてなかったり、適切にされているであろうとして評価している可能性もあるかもしれない。検討が必要と思われる。

(5) 「学校全般について」からわかること

《考察》

学校全般についてのアンケートは、生徒・保護者・教員とも昨年と同様のアンケートを行った。

生徒対象には設問 13 の教育相談やカウンセリングの認識、設問 14 のホームページの周知度、設問 15 の一斉メールへの登録、設問 16 の学校生活への満足度をみるアンケートを行った。

設問 13 の否定的回答が 4 割弱となっているが、生徒にとって教育相談部は精神的な安らぎや相談の場として、今後もさらに重要性を増すと思われる。設問 14 の『特にそう思う』は 11.6%。生徒が学校のホームページへの関心が低いことを表している。学校全体の事に関心が低いのは残念な事である。設問 15 については登録している生徒はほぼ 5 割であった。設問 16 の肯定的回答が 99.6%。細分化の『特にそう思う』は 63.4% となり、昨年度よりもさらに 6 ポイントほど満足度は高い。一方 3.4% の生徒は否定的評価で、何らかの不満を抱いている。授業や部活動、学校行事などさまざまな場面で、生徒の自己肯定感を育む細やかな指導が今後も必要になってくると思われる。

保護者対象の設問では、設問 13 の保護者対象カウンセリングの活用、設問 14 の P T A 活動などへの参加状況、設問 15 の本校への満足度をみるアンケートを行った。

設問 13 のカウンセリングを活用したい肯定的回答が 54.7%。その中で『特にそう思う』が 7.9%。このような保護者には、担任を通じてカウンセリングをすすめても良いのではないかと思う。設問 14 の肯定的回答が 40.1% と昨年とほぼ変化はない。仕事や家事に多忙な中、学校まで足を運んでもらうには、HR 担任をはじめとした教員の丁寧な呼びかけが必要と思われる。設問 15 の肯定的回答は 97.9% と非常に高い。『特にそう思う』生徒よりも 10 ポイントほど高い。保護者の学校に寄せる期待は大きい。その期待に応え円滑に教育活動を行っていくためにも、担任との懇談会、各分部 P T A との連携など本校に対する理解を促していく努力が求められる。保護者と学校が車の両輪として機能するためにも、学校側の普段からの働きかけが必要である。

教員対象の設問では、設問 13 の共通理解を持つての生徒指導、設問 14 の生徒に向き合う時間の確保、設問 15 の校務分掌の仕事量のバランスの良い割り振りについてアンケートを行った。

設問 13 の肯定的評価は 58.4% (昨年は 55% 一昨年は 47%) と毎年徐々に上がってはいるが『特にそう思う』の評価は 13.8% と低い項目でもある。指導の事前申し合わせをしていることは勿論だが、生徒や保護者の多様化。各科、各クラスの中での個々の指導を同じく出来ないことも要因に上げられる。これからも教員の負担は増えるものと思われる。設問 14 の肯定的回答は 73.8%。しかしその中の『少しそう思う』は 60% も。また『あまり思わない』が 26.2% と、合わせると 85% を超えている。設問 15 の校務分掌の割り当てのバランスの良さについては、細分化した『特にそう思う』7.7% 『少しそう思う』24.6% 『あまり思わない』49.2% 『まったく思わない』18.5% と、否定的評価が 67.7%。約 7 割に達する。校務の難易度や、協力的であるか否かによって校務が偏ったり、評価自体、特定の少数を見て多数が評価したものなのか、いろいろ推測されるが改善が望まれる。

III 広報の概要

アンケートの結果については、3 月に文書で生徒・保護者へ公表する。

IV 次年度へ向けて

総合的には本校の教育は生徒・保護者の期待に応じて成果をあげていると判断する。更に実りのある教育活動をするために、改善に向けた工夫を次年度に向けて継続して求めていく必要があると思われる。最後に、ものづくりを知る教員が、学ぶことの楽しさを生徒たちにより一層伝えることで、生徒も教員も元気で意欲的に活動していくことが出来ると思われる。こうした専門高校の特徴を生かし教員が一丸となって「社会に貢献できる人材」を育てていく学校づくりに励むことが重要である。